

第5章 まちづくりの理念と基本方向

1 まちづくりの理念

これまでにみてきたように、横須賀のまちづくりは江戸初期の横須賀御殿の造営にはじまり、伝統的な文化を育み、現代に引き継がれてきました。

これらの歴史や文化を継承し、現代に生きる人々の暮らしとの調和を図りつつ、市民とともに愛着の持てるまちの個性を創出することが必要です。このような観点から、まちづくりの理念を次のように設定します。

江戸の古から引き継がれる“町方文化”を

市民とともに守り、育み、未来に発信するまち

～江戸時代の町割を礎に、山車まつりが息づき、人が輝くまちづくり～

2 まちづくりの基本方向

まちづくりの理念を具体的に展開するため、まちづくり上の課題への対応の視点から、これからの横須賀のまちづくりの基本的な方向性を次のとおり定めるものとします。

基本方向1：山車まつりが映える景観まちづくり

- 町方の町割や昔の面影を伝える風情ある建物を生かしたまち並み景観を誘導します。
- 横須賀の伝統文化である横須賀まつりの山車が引き回される道筋や、愛宕神社参道などの文化的な雰囲気醸し出す景観づくりを促進します。
- 国道155号（常滑街道）沿道のにぎやかだった、かつての町家文化を継承する商店街のまち並み景観づくりを促進します。

基本方向2：まちの新たな拠点づくり

- 文化センターのリニューアルによる、地域の歴史・文化を知るための情報の収集や提供、周知・啓蒙のための拠点機能、地域住民のコミュニティ活動や文化活動の拠点としての機能充実を図ります。
- 地域住民の自主的・継続的なコミュニティ活動、まちづくりへの取り組みを促進します。

基本方向3：地域資源を生かしたにぎわいづくり

- 町方や町家の立ち並ぶ歴史のまちの探訪を通じ、地域住民や外部からの来訪者が出会い、集うことのできる交流や触れ合いの場の形成を図ります。
- 空き家、空き店舗の再生と活用により、地域住民やNPOなどが主体となって展開する高齢者や子育て世代のための交流の場や、コミュニティカフェ、地域の農産物の直販店などのにぎわいの場を創出します。

基本方向4:花と緑の健康まちづくり

- 昔ながらの路地空間を地域住民のコミュニティの場として生かしつつ、沿道敷地を花や生け垣で彩ることで、安心して気持ちよく歩ける交通環境の形成を図ります。
- 町方や国道155号沿いの歴史的なまち並み形成やにぎわいの創出と合わせ、地区周辺の元浜公園、公家緑道などをつなぎ健康づくりに寄与する散歩みちネットワークの形成を図ります。

基本方向5:安全・快適なまちづくり

- 尾張横須賀駅前広場や駅前通りなどの都市基盤の整備を促進するとともに、自動車や歩行者・自転車が共存できる安心して歩ける道路・交通環境の形成を図ります。
- 町方内部においては、細い路地空間を生かした歩行者や地域住民を優先したコミュニティゾーンの形成を図ります。
- まちの緑化や防災施設の充実とともに、既存の町割や建物を生かしながら、密集した木造住宅地の防災性を高めるためのコミュニティによる地域防災力を強化します。

まちの特徴 一個性、長所（強み）、短所（弱み）—
 ○横須賀のまちが形成されてきた営みをいまに伝えるまち
 ○伝統的な文化を引き継ぐまち
 ○昔ながらの木造住宅の密集した路地と暮らし
 ○変わりゆく街

まちづくりの理念
 いにしえ
江戸の古から引き継がれる“町方文化”を
市民とともに守り、育み、未来に発信するまち
 ~江戸時代の町割を礎に、山車まつりが息づき、人が輝くまちづくり~

まちづくりの課題

- 横須賀の歴史・文化の再認識と継承
 - 横須賀の歴史や文化を尊重し、これを生かしたまちづくり
 - 伝統的な建造物や町家の再生やこれらと調和したまち並みの誘導
- かつてのまちのにぎわいやコミュニティの再生
 - まちのにぎわいを取り戻すための、集いや出会の創出
 - 住民同士のふれあいや、日常的な近所づきあいの活性化
- まちの安全性、防災性の向上
 - 安全で安心でき、現代の生活にも合った快適な都市の基盤づくり
 - 密集住宅地の防災性の向上

まちづくりの基本方向

- 基本方向1：山車まつりが映える
景観まちづくり
- 基本方向2：まちの新たな拠点づくり
- 基本方向3：地域資源を生かした
にぎわいづくり
- 基本方向4：花と緑の健康まちづくり
- 基本方向5：安全・快適なまちづくり